

全基の羽を交換

風車運転再開へ

東伊豆、風力発電10基

東伊豆町奈良本で昨年5月、風力発電施設10基のうち1基の羽根が破損し、全基の運転を中止していた「クリーンエナジーファクトリー」(北海道根室市)は19日、全基の運転を22日から再開すると発表した。

破損した羽根は長さ37メートル、重さ6・5トン。同社によると、羽根の接合部分の接着不良などが原因とわかり、全基の羽根を交換したという。

同社は昨年末、事故の状況や原因、再発防止策などをまとめた報告書を原子力安全・保安院へ提出したとして、「再発防止策を確実に実施し、安全管理への取り組みを強化する」としている。

風車による影響

住民らが報告会

下田、健康被害・景観

伊豆半島で稼働中や建設計画がある風力発電の問題点などを考える「伊豆半島風力発電フォーラム」が18日、下田市で開かれた。同市や周辺自治体の住民らが、風車による健康被害や景観・環境への影

響などについて発表した。

東伊豆町の覚張敏子さんは現状報告として、風車の周辺住民に耳鳴りや頭痛のほか、口の中に血がたまったり、鼻血が出たりする健康被害が出ていると訴えた。

旅ジャーナリスト会議(東京)の森田芳夫代表は、出身地の長野県伊那市が住民の反対署名から風力発電計画に反対の意思表示をしたことを紹介。河津、東伊豆両町にまたがる天城三筋山の風車建設現場と南伊豆町の石廊崎周辺にある風車を視察したことを受け、「風車を見て、武器的なものを突きつけられた感じがした。山に風車が立っているのは景観とは合わない」と話した。